

平成16年度食料費消費モニター特別調査  
～野菜価格高騰時(10月下旬から)の消費者の購買行動～ について

1 野菜価格の高騰

96%以上のモニターが野菜価格の高騰を実感。

特に、キャベツ、レタス、はくさい等の葉物野菜が高いと回答。

野菜の購入量も、56%のモニターが1～3割程度減少、19%のモニターが3～5割程度減少と回答。

2 野菜価格の高騰に対する消費者の工夫

42%のモニターが「高くなったものを買い控えて他の野菜を買っている」とし、もやし、貝割れ大根等の価格が安定しているものやばれいしょ、たまねぎ等葉物以外の野菜の購入を増やしている。

18%のモニターが「同じ野菜で安い物を買っている」としており、そのうち89%が曲がったきゅうりなど通常は出回らない野菜を購入していると回答。

また、76%のモニターが曲がったきゅうりなどの並級品野菜について「品質が変わらなければ購入する」と回答。

毎日の献立について、54%のモニターが「安い野菜を主体にした献立が増えた」と回答。

野菜価格高騰後、29%が普段利用している店舗が変わったとしており、産地直売所を利用したとする回答が多い。

3 国産品志向

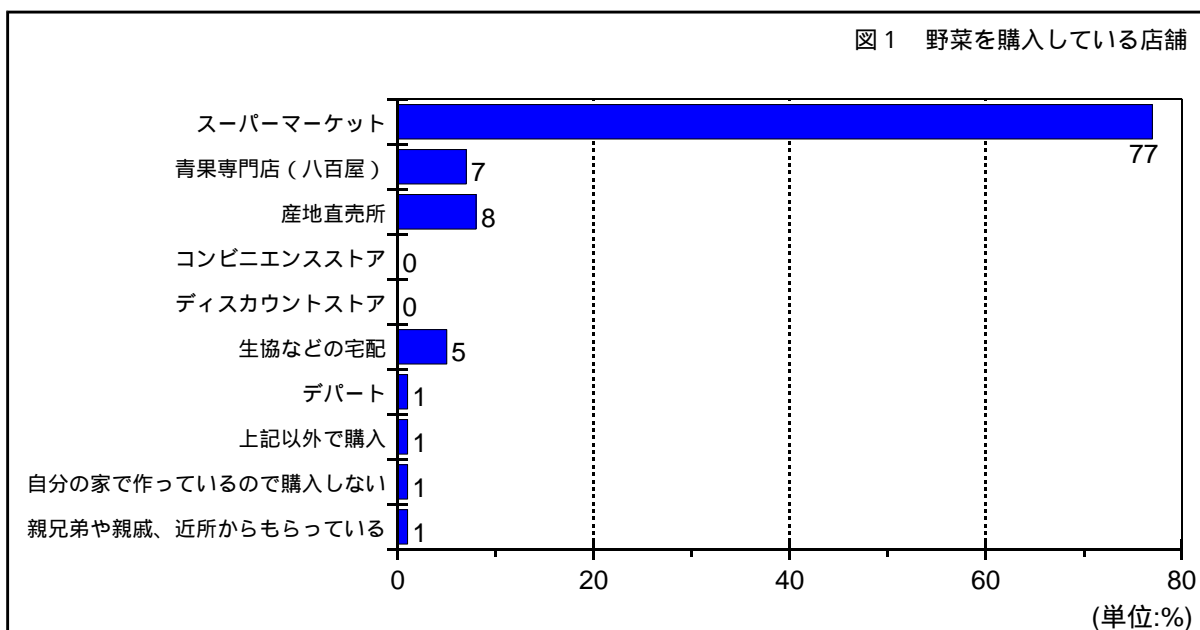
国産品と輸入品の選択については、42%のモニターが「少しくらい(2割くらい)高くても国産を買う」、31%のモニターが「高くても国産を買う」としており、多少の価格差であれば国産品を買いたいとする消費者の意向が伺える。

平成16年度食料費消費モニター特別調査実施結果  
 ~野菜価格高騰時(10月下旬から)の消費者の購買行動~

1 普段野菜を購入している店舗

普段、野菜をどんな店舗で購入しているか、1つだけあげてもらったところ、「スーパーマーケット」と回答する人が最も多く77%、次いで「産地直売所」8%、「青果専門店(八百屋)」7%、「生協などの宅配」5%であった。

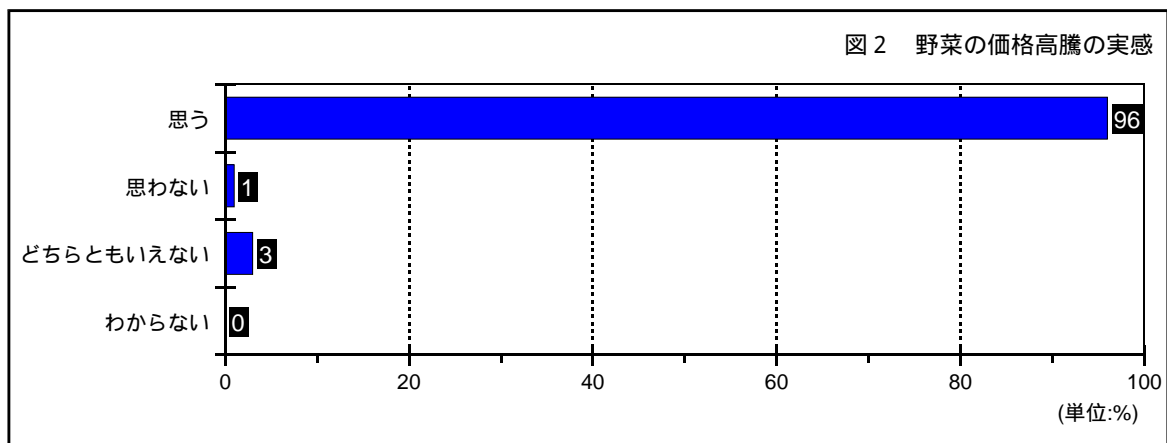
また、「デパート」、「その他での購入」、「自分の家で作っているので購入しない」、「親戚等からもらっている」という回答は、いずれも1%であった。(図1)



2 野菜の価格高騰の実感

「1」で野菜を購入していると回答した人に、普段利用している店舗で、野菜の価格が平年と比べて高くなったと思うかについて聞いたところ、96%の人が「高くなったと思う」と回答している。(図2)

地域別に見ると、比較的台風等の影響を受けなかったためか、東北地域のみが「高くなった」と思う人の割合が90%を割っている。



### 3 野菜価格高騰後の利用店舗

「2」で高くなったと思うと回答した人に、野菜の価格が高くなってから利用する店舗が変わったか聞いたところ、「変わっていない」と回答する人が多く71%、「変わった」とする人は29%であった。

### 4 変更後の利用店舗

「3」で「変わった」と回答した人に、どのように店舗を変えたかについて聞いたところ、「スーパーマーケット」、「青果専門店（八百屋）」、「生協などの宅配」を利用していた人は、野菜の価格高騰後は「産地直売所」を利用しているという回答が最も多かった。

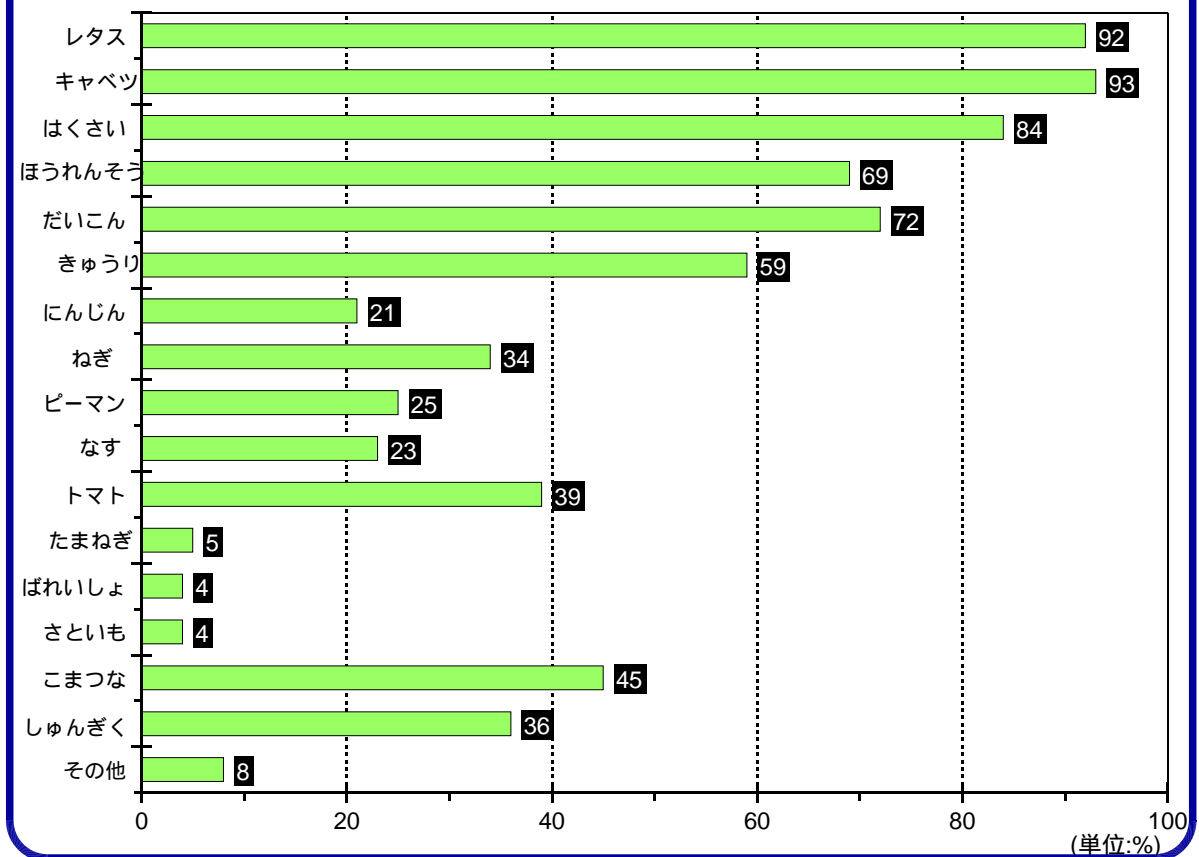
### 5 高くなったと感じた野菜

「2」で「高くなったと思う」と回答した人に高くなったと感じた野菜をすべてあげてもらったところ、こちらが例示した全ての野菜について回答があった。

特に回答割合の高かったものは「キャベツ」、「レタス」、「はくさい」といずれも葉もの野菜で、それぞれ93%、92%、84%であった。（図3）

「その他」と回答する人が8%いたが、あげられた品目の中で多かったのは、「きのこ類」、「水菜」、「ブロッコリー」であった。

図3 高くなったと感じた野菜



## 6 高騰時の対応

「2」高くなったと思うと回答した人に、野菜の価格が高くなってから、購入する際にどんな対応をしているか聞いたところ、「高くなったものを買ひ控えて他の野菜を買っている」と回答する人が最も多く42%、次いで「購入量する量は減らしたが品目は変えていない」23%、「同じ野菜で安いもの（まがったきゅうりなど）を買っている」18%、「高くなったものは買わず冷凍野菜や野菜加工品（水煮、カット野菜など）を買っている」と「高くなったものを買ひ控えただけで代替品は買っていない」が同数で4%であった。

一方で「高くても普段と同じ量を買っている」とする人も6%いた。

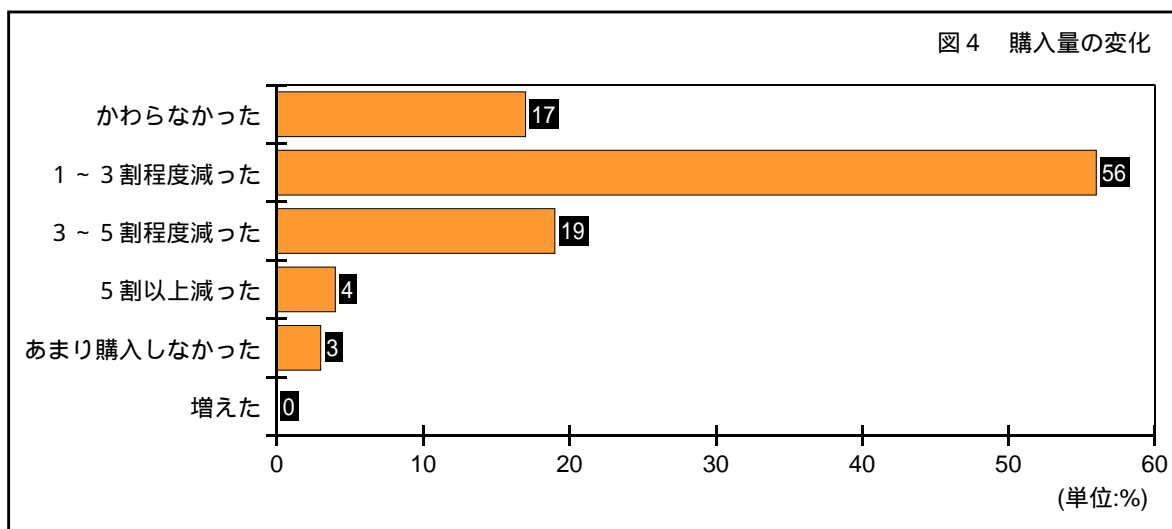
「高くなったものを買ひ控えて他の野菜を買っている」と回答した人に、どんなものを買入したか聞いたところ、「もやし、貝割れ大根などの値段があまり変わっていない野菜」とする人が55%、「ばれいしょ、たまねぎなどの葉もの以外の野菜」38%であった。

さらに、「同じ野菜で安いもの（まがったきゅうりなど）を買っている」と回答した人についても、どんなものを買ったか聞いたところ、「曲がったきゅうりなどの通常はあまり出回らない並級品」89%、「輸入品」4%という回答であった。

## 7 野菜の購入量の変化

「2」で高くなったと思うと回答した人に、平年の同時期（10月下旬頃～11月上旬）に比べて、野菜の購入量に変化はあったかどうかについて聞いたところ、「1～3割程度減った」と回答する人が最も多く56%、次いで「3～5割程度減った」19%、「かわらなかった」17%、「5割以上減った」4%、「あまり購入しなかった」3%であった。（図4）

野菜の価格高騰に際しては、82%の人が野菜の購入量を多少なりとも減少させている。



## 8 毎日の献立の変化

「2」で高くなったと思うと回答した人に、野菜の価格が高くなってから毎日の献立に変化があったかについて聞いたところ、「安い野菜を主体にした献立が増えた」と回答する人が最も多く54%、次いで、「特に変化はない」28%、「肉、魚など野菜以外を主体にした献立が増えた」18%となっている。

## 9 並級品（曲がったきゅうり）などの購入意向

曲がったきゅうり、ねぎ、だいこんや巻きの悪いレタス、変形したキャベツなどの野菜が店頭に並んだ場合、購入するかについては、「品質が変わらなければ購入する」と回答する人が最も多く76%、次いで「価格が安ければ品質が悪くても購入する」21%、「購入しない」3%となっている。

## 10 外国産野菜の購入意向

国産の野菜が品不足で高値となっているときに、安い外国産の野菜が輸入され、店頭に並んでいたら、国産と輸入品どちらを買うかについては、「少し高いくらい(2割くらい)であれば国産を買う」と回答する人が最も多く42%、次いで「高くても国産を買う」31%、「価格差が大きければ(2割以上)輸入品を買う」19%、「国産と輸入の区別なく買う」8%であった。(図5)

「6」で実際にどのように対応しているかと聞いているが、「輸入品」と回答した人が非常に少なかったことから、国産野菜が高騰していても、多少の価格差であれば国産を買いたいという消費者の意向が伺える結果となった。

